

## Report 0310原発ゼロ☆国会前大集会—福島・希望と共に— 政治家・スピーチ集

福島原発事故から8年・3.11追悼 —原発のない社会の創生に向けて  
再稼働反対！ 原発ゼロ政権の誕生を！

### 夏の参院選へGO！

### 市民と野党の共闘で原発ゼロの実現を！

3.11東日本大震災と福島原発事故から8年。首都圏反原発連合は3月10日に【0310 原発ゼロ☆国会前大集会 -福島・希望と共に-】を開催しました。脱原発を目指す各野党の代表者と、原発事故当時の首相である菅直人衆議院議員、超党派の議員連盟『原発ゼロの会』事務局長の阿部知子衆議院議員のスピーチをご紹介します。



(敬称略) \*集会でスピーチした順にご紹介いたします。

#### 菅 直人〈元内閣総理大臣／衆議院議員〉

東日本大震災と福島第一原発事故から8年が経過いたしました。この間、安倍政権の原発推進を阻止している最大の力は、まさに首都圏反原発連合の皆さんの活動の継続であると、私は心からそのように思っております。

私は、原発事故の前までは、日本の技術をもってすれば事故は起こらないだろうと考えていました。総理という立場で、いまの安倍さんと同じように原発のトップセールスをやっていた張本人であります。しかし、2011年3月11日にあの事故が起きて、東京も含む地域から、5000万人の人が避難をしなければならないような、本当に瀕戸際だったということを、まさに全体で知ることになり、それ以来、私は考え方を180度変えました。

私は、原発産業はいまギリギリのときを迎えてると思っています。福島原発事故によって、建設コストが以前に比べて少なくとも3倍になっています。採算が合わないものはつくれない資本主義国では、原発産業は成り立たなくなっています。自民党の中でもそのことをわかる人は当然わかっている。経産省の中でもわかってる人たちはたくさんいます。しかし、なぜやめようとしないのか。それは、目先の利益なんです。

これから1年を、日本から原発をなくす記念的な1年にするために、皆さ

ん方の運動を先頭にして、私も一緒にやってがんばりぬきたいと思います。そのことを申し上げて、連帯のあいさつにかえさせていただきます。お互いにがんばりましょう、ありがとうございました。

#### 阿部 知子〈超党派議員連盟「原発ゼロの会」事務局長／衆議院議員〉

皆さん、こんにちは。超党派の議員でつくる『原発ゼロの会』の事務局長の阿部知子です。首都圏反原発連合の皆さん、原発をなくすために、抗議を今まで7年間続けてくださいました。そして、『原発ゼロの会』の活動もちょうど7年になります。皆さん、思い出してみてください。あの終わらなかつた戦争と同じような中に、いま私たちは立たされています。

私たちは、安倍政権に代わる次の政権を絶対に原発ゼロ政権にしなければ、この国の未来も子供たちの平和も、生存を保障する社会もできないと思っています。また、本当に原発ゼロにするならば、なにをしておかなければならぬかを考えています。敵は官僚の大きな軍団で私たちは100名そこそこですが、知恵を集め、一歩一歩確実に歩んできました。政権がいますぐに代わっても大丈夫、私たちは原発ゼロを実現できる。その自信と確信を重ねてここまで歩んできました。

自民党の皆さんの中にも、原発を止めようという流れがどんどん大きくなっています。その肝の部分を、自民党議員も所属している超党派の『原発ゼロの会』は、これからも担っていきます。そして、さきほど反原連から2020年末までしか資金が続かないと報告がありました。それまでには絶対に原発ゼロを実現して、皆さんと一緒に活動をやめたいと思います。このお約束を、『原発ゼロの会』事務局長の阿部知子からの、限りない連帯のごあいさつといたします。ありがとうございます。



### 各政党からのアピール

#### 日本共産党 吉良 よし子〈参議院議員〉

福島原発事故から8年、抗議を続けて7年。ずっと声を上げ続けて、あらゆる場所であらゆる形で行動を続けている皆さんの活動に、心からの連帯と敬意のごあいさつを申し上げます。

福島第一原発では汚染水は増え続け、デブリ取り出しの見通しもまだまだ不透明で、事故収束にはほど遠い現状です。また、避難を余儀なくされた皆さんの避難生活も長引き、ふるさとの地域社会の崩壊も深刻です。汚染が厳しい地域ではいまだに、避難解除の目途も立っていません。被害者を切り捨て、賠償を打ち切って、避難住宅からの追い出しまでやりながら、再稼働を進めている安倍政権。許すわけにはまいりません。

ただ、そういう中でも、原発ゼロへ向けた大きなうねりが起きていることは確かです。そして、原発輸出はもう成り立たない。破綻している、追い詰められているじゃないですか。原発に固執している安倍政権を一刻も早く終わらせましょう。今年は選挙の年です。統一地方選挙でも、参議院選挙でも原発ゼロを大きな争点にして、原発ゼロの政治を実現しようじゃないですか。

国会に『原発ゼロ基本法案』が提出されて1年になりますが、必ず成立させる。原発のない未来を子供たちに手渡していく。私たち日本共産党も皆さんと手をつなげながらがんばり抜く。その決意を申し上げまして、この場でのごあいさつといたします。ともに、最後の最後までがんばりましょう。ありがとうございました。

#### 立憲民主党 大河原 雅子〈衆議院議員〉

首都圏反原発連合の皆さん、お集まりの皆さん、こんにちは。皆さん毎週金曜日にここから全国に、世界に向けて、そして官邸に向けて発信をしてこられたことに、心からの敬意を表します。

私は参議院議員のときに3.11を迎ましたが、一昨年、立憲民主党ができるまでは、バッジを外して一市民として皆さんと一緒にデモをしたり、電力会社を変えたり、市民の発電所をつくる活動に寄付や出資をしたり、自分にできる活動をしてきました。

原発をなくしたいと思う人たちが、国会の中には実はたくさんいるはずなんです。でも、安倍政権は原発推進にまっしぐらで、自民党の中からも脱原発、原発ゼロという声はなかなか聞こえきません。立憲民主党は原発ゼロが党の綱領ですから、いま各地で擁立されている候補者も、これらの点にしっかりと視点をもち、活動をする議員になる人たちなんです。

もうすぐ統一地方選挙が始まります。「原発ゼロをどう思うんですか」と一人ひとりの候補者に問うていただきたいんです。うっかり自民党に入ってしまう有権者もいますが、その候補者が安倍政権を支えてしまします。そういう、地域の政治を変えなければ原発ゼロは実現しません。

昨年の3月9日に国会に提出した『原発ゼロ基本法案』がいまだに審議されないんです。そんなことがあってはならない。是非とも皆さんと一緒に、民主主義、立憲主義を立て直し、原発ゼロを必ず実現してまいりましょう。どうもありがとうございました。

#### 自由党 山本 太郎〈参議院議員〉

\*2019年3月10日現在の肩書きです

皆さん、「デモで世の中変わりますか?」、そんなことを言われたことはないですか。いや、変わるんですよ。なかなか原発の再稼働が進まないのは、皆さんの声があるからじゃないですか。デモで人生が変わって国会議員にまでなった男がここにいますよ。



私は、原発は即時撤退以外ないと思っています。もちろん、再稼働はとめなければならない。だけど、稼働していない原発も、ひとたび大きな地震がおきて電源を喪失してしまえば、十二分に過酷事故に陥る可能性はある。これを、どうやって国民民主党とすりあわせるんだって話ですよね。

国民党は「限定的再稼働」と言ってますが、その条件は「国が避難計画をつくらないといけない」「核の最終処分地を決定しなければならない」。これ、決められますか。限定的再稼働容認といいながらも、再稼働ができないようになっているんですね。ややこしいですよね。とっとと「原発ゼロ」と言っちゃえよという話だと思いませんか。

それを言わせられるのは誰なのか。この国の最大の権力者であるこの国に生きる皆さん、有権者一人ひとりであることは間違いないことです。でも、この永田町の中でもそれはできるんです。野党第一党が、国民党、自由党、その他希望する党を飲み込んだ上で、政策をまとめてくれたらいいんです。夏の参院選で、もしかしたらダブル選挙で、結集して闘うしかないと思います。皆さんのお力を貸していただきたいんです。力を合わせましょう。原発は即時撤退以外ない。よろしくお願いします、ありがとうございました。

#### 社民党 又市 征治〈参議院議員〉 \*メッセージ代読

東京電力福島第一原発事故から8年。約52,000人もの人々が避難生活を余儀なくされ、放射能が拡散し低線量被ばくの恐怖に怯えながら日常生活をおくっています。また、原発事故を要因とする震災関連死等も増え続けています。

政府の避難指示の解除や避難者への住宅無償提供等をとりやめるなど、原発事故が収束しているかのような施策は断固として撤回させなければなりません。棄民政策をやめさせ、原発避難者の権利をまもっていきます。

東京電力福島第一原発事故で溶融した炉心への注水や地下水流入による汚染水が増えづけていることなどを考慮すると、原発事故は収束していない。原発の再稼働に反対するとともに原発ゼロ基本法の早期実現を目指します。

今年はビキニ事件(1954年)から65年になります。マグロ漁船の第五福竜丸乗組員23人が被ばくしたことから原水爆禁止運動のきっかけとなりました。

その核実験場となった島にはいまだに帰島することができません。放射能による被害は、核兵器も原発も全く相違ありません。

いま一度、核の平和利用が夢物語であり、「核と人類は共存できない」ことを確認します。「核絶対否定」を胸に刻み、「原発なき日本」、「核なき世界」、「戦争なき世界」の実現をめざし、激励と連帯のメッセージといたします。

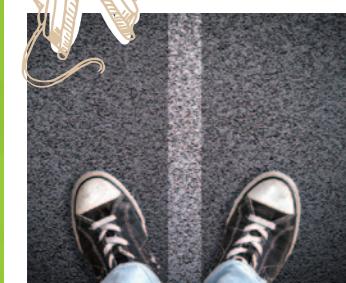
スピーチ全文はこちらでご覧いただけます

<http://coalitionagainstnukes.jp/?p=12483>



### Walk and Talk it

#### 「君は正気で僕は狂ってるのかもね」—— 楽曲『You May Be Right』



今年の3/11、中西宏明絆連会長は「原子力エネは必要という議論を深めるべき」「感情的な反対をする方と議論しても意味がない」と発言した。中西氏が原発反対派は全員感情的、と決めつけたのではないとしても、氏が理性的に議論できると言いたいのでは、という推測ができる。しかし原発反対派は「感情的」、自身は「理性的」という二項対立の概念が突然に持ち出された印象は避けようがない。

パンクバンドAvailもカヴァーしたビリー・ジョエルのヒット曲【You May Be Right】(「ガラスのニューヨーク」)で、「君は正気で僕は狂ってるのかもね」と歌われる。

「君」はおかしな事ばかりをする「僕」を「狂っている」と言うのだが、【僕が狂ってるのなら/君のせいってことさ/君は他の僕は欲しくないだろ】と歌われ、正気と狂気の間に引かれる線が曖昧である事が明かされているのだ。

中西氏が議論に負けそうだからしたくないのでは、とSNS上でも呟かれたが、同時に、原発問題に関する議論では自分が感情的になってしまいそうで、それを見せたくないのでは、という推測も当然ある。「感情的」と決めつけた中西氏の発言は「感情的」ではないのか。二項対立の間の線が常に、「理性的」に引かれているわけではない。(TH)

### RECORD THE POWER OF THE PEOPLE!

2013年2月10日(日)

#### 首都圏反原発連合『NO NUKES MAGAZINE』リーフレット・キャンペーン始動

2012年末の衆院選で脱原発が焦点になるよう、首都圏反原発連合は『脱原発あなたの選択』プロジェクトで42万枚のフライヤーを配布しました。しかし、選挙の結果には繋がらず、42万枚のフライヤーは、脱原発の社会運動の外にまでは浸透しなかったのではないかと総括しました。

そこで、より外に視野を広げ、原発の問題を伝えるために、わかりやすいリーフレットの必要性を感じ、『NO NUKES MAGAZINE』キャンペーンを始動、原宿ラオーレ前街宣で配布を開始。vol.1は32万部を配布することができます。その後、同シリーズのリーフレットを3種類リリースしました。



### 編集後記

経産省は、原発を「ゼロエミッション電源」と位置づけ、環境への貢献で付加価値をもたらしているとして、消費者や企業が払う電気料金に費用が上乗せされる原発補助制度の導入を検討しています。しかしこれは、福島第一原発事故や電力自由化を受けて、原発の価格競争力が落ちていることの裏返し、断末魔の叫びではないでしょうか。

統一地方選が終わり、夏には参院選が控えています。市民と野党が脱原発で共闘し、安倍政権を揺るがす大きなチャンスです。開始から8年目に突入した『再稼働反対!首相官邸前抗議』(金曜官邸前抗議)でも、引き続き大きく訴えていきましょう。原発推進政策が行き詰まつたいまこそ、再び大きく集まりましょう。政府の掲げる虚構のエネルギー政策を打ち碎きましょう！